

名 称	桐生市立広沢幼稚園 P T A
会 員 数	1 2 人（令和 6 年 5 月 1 日現在）
組 織 ・ 運 営	【組織】 (1)本部役員：会長・副会長・書記・理事・事務局・監事・顧問 (2)専門部：文化部・交通安全部・写真部(全会員がいずれかに所属) ※両親共働き家庭が多いことや感染症対策に配慮し、効率のよい運営や保護者の負担軽減に努めている。会議のスリム化、電子メールの活用、部会の数や人数・組織の見直し、PTA 主催事業には協力できる保護者が参加という方法を取り、誰もが参加しやすい PTA 活動を展開している。 【運営】総会・本部役員会・実行委員会(年間 3 回程度) ＜主催行事＞ 家庭教育学級・親子の集い・行事写真撮影(年 5 回) ・写真販売(年 3 回)・親子交通安全教室(年 1 回)・ 幼小中スクールゾーン対策委員会・幼小中合同 PTA 歓送迎会 ＜共催行事＞ 夏祭り ＜その他＞ 行事の手伝い 【地域連携】 広沢地区の青少愛育運動協議会、生涯学習推進委員会主催の夏祭り・もちつき大会への参加・参加協力等、地域の各種団体と連携し、地域の子供たちの健やかな成長のために様々な行事や活動に取り組んでいる。 また、幼小中の積極的な連携を図り、幼小中合同 PTA 歓送迎会(現在は感染症等拡大防止のため 4 年間中止)、幼小中合同スクールゾーン対策委員会、危険箇所実地調査等を実施している。
主 な 活 動	【本部 親子の集い】「親子で昆虫の森に行こう！」 ・入園・進級後の 5 月頃、園児・保護者の親睦を兼ねて『親子の集い』を本部役員が中心となって企画・実施している。今年度は、ぐんま昆虫の森に出掛け、散策しながら昆虫を見つけたり館内で展示を見たりして過ごし、昼食後は親子で自己紹介を行った。とても有意義な 1 日を過ごすことができた。    

【文化部 家庭教育学級】「親子で楽しいTシャツづくり」

- ・毎年、親子で楽しくTシャツづくりをしている。この活動は、本園PTA事業の恒例となっており、担当の保護者が講師を務めている。Tシャツのモチーフについては、部長・本部役員を中心に話し合い、仕上がった世界で1枚のTシャツは、年間行事(夏祭り・運動会・園外保育など)の際に着用している。



【交通安全部】「親子交通安全教室」

- ・交通安全部が中心となって年1回夏休み前に親子交通安全教室を開催している。桐生市の交通ヘルパーを講師に、雨の日の横断歩道の渡り方や交通ルールを親子で学んでいる。また、地域の教習所等に依頼し、園児だけの交通安全教室も実施している。
- ・幼小中PTA合同で、スクールゾーン対策委員会を実施している。園・学校、地域の代表者や警察署員、市役所生活安全課職員が集まり、地域の危険箇所等を話し合い、実際に実地踏査し県や市に改善要望をしている。



名 称	伊勢崎市立茂呂小学校 P T A
会 員 数	6 3 6 人（令和 6 年 5 月 1 日現在）
組 織 ・ 運 営	1 組織 ・本部役員 1 4 名 会長 1 名・副会長 6 名・書記 4 名・会計 3 名 ・専門部長 4 名 (学校活動部会・特別支援教育部会・地区部会・卒業対応部会) 2 運営 ・総会（年 1 回・書面開催） ・実行委員会（年 3 回程度） ・拡大実行委員会（年 1 回） ・旗振り協議会（年 3 回） 負担軽減のため、総会の書面開催を可能とする会則の改正を実施。本部役員・専門部長で組織する実行委員会の開催頻度は必要最小限とする代わりに、グループウェアを用いて日常的に意見交換・情報共有を行っている。
主 な 活 動	1 SDGs を子どもたちとともに学ぶ取り組み ・マーチング T シャツバンク(令和4年度から) 運動会のマーチングで 6 年生全員が着用する T シャツをリサイクルすることで引き継ぎ、児童の「価値のあるものを大事にする」という意識を育むことを目的に、PTA が運営主体となりマーチング T シャツバンクを立ち上げた。卒業生が通う中学校や公民館から協力を得て、T シャツの寄付を依頼する通知や掲示を行い、回収した T シャツをクリーニングした上で、リサイクル品の利用を希望する家庭に貸与した。 ・みんなで取り組むステ活のススメ(令和6年度) 資源サイクルの重要性や消費者としてあるべき姿について児童に考えてもらうことを通じて、SDGs に対する理解をより深めることを目的に、地元のリサイクル事業者及び JRC 委員会と協力して学校で金属資源を回収する「ステ活」の取り組みを実施する。 資源回収により得られた収入は、貧困や紛争、差別など様々な社会的課題に直面する人々のためにどのように使用するかを児童自ら考える事で、社会が直面する課題について理解を深めるとともに、困難な状況にある人たちに想いを寄せるなど、思いやりの心を醸成することに繋がることが期待されている。



2 学校と地域をつなぐ取り組み

・茂呂小 150th フェス(令和5年度)

地域と共に歩み、地域に支えられてきた茂呂小学校の開校 150 周年を、地域の皆さんと共に祝いたいという思いから、PTA が主体となって実行委員会を組織し、記念事業「茂呂小 150th フェス」を開催した。

郷土芸能発表や地区のジュニアリーダーによるレクレーションなど、地域の方々にも積極的に参画いただくイベントを企画したほか、事業チラシを地区全体に回覧し、地域の方々に幅広く来場の呼びかけを行った結果、小学校関係者以外にも数多くの方にご来場いただき、本事業を通じて茂呂小学校を核とした地域の一体感を醸成することができた。

また、本事業の成功が地域でも高く評価されたことで、令和 6 年度に茂呂地区で行われた「茂呂地区ふるさとまつり」への協力要請をいただくなど、地域との関係性の深化にも繋がっている。



茂呂小 150th フェスのフィナーレに行なったバルーンリリース(R5)



茂呂地区ふるさとまつりで子ども向けのクイズイベントを実施(R6)

3 会員に寄り添った PTA 組織の実現に向けた取り組み

令和 4 年度に全会員を対象に PTA に対する意識調査を実施し、その結果を踏まえて以下の改革を行った。

・強制感の少ない組織体制及び事業への改変

従前は各クラスから学級委員及び専門委員の計 4 名を選出していたが、意識調査から役員を強制されているという認識が強いことがわかった。それにより、各クラスの役員選出を廃止すると共に、PTA 組織の改変と事業全般の見直しを実施するなど、強制感が少なく会員の理解を得やすい組織づくりに取り組んでいる。

・デジタル・インターネットを活用した本部役員の負担軽減

意識調査から本部役員は業務が多く負担であると認識されていることがわかった。そのため、PTA 役員の負担を軽減して、誰でも参加しやすくなるよう、広報紙制作をネットの事業者にアウトソーシングしたほか、対面による会議を減らすため、日常的に役員間の意見交換や情報共有を可能にするグループウェア（LINE WORKS）を導入した。また対面での会議を実施する際も、子ども連れでの参加を可能にしたり、オンラインによる参加を可能にしたりするなどして、すべての役員が参画しやすい環境づくりに取り組んでいる。

また、本部役員として PTA に関わることの心理的なハードルを下げるため、これら負担軽減の取り組みについて広報紙で定期的に情報発信を行っている。

名 称	川場村立川場小学校 P T A
会 員 数	98人（令和6年5月1日現在）
組 織 ・ 運 営	1 組織 ・本部役員 5名（会長1名 副会長2名 書記1名 会計1名） ・地区委員長 8名 学年委員長、副委員長 各1名 ・教育推進委員会委員長、副委員長 各1名 ・保健体育委員会委員長、副委員長 各1名 2 運営 （1）PTA 総会（年1回） （2）PTA 本部役員会（年3回） （3）各委員会、学校行事、学年行事、地域行事等への協力
主 な 活 動	1 県外小学校との継続的な交流の実施 本校は世田谷区立千歳台小学校と昭和59年に姉妹校協定を結び、以来交流を続けている。冬には、千歳台小5年生が川場村を訪れ、スキー交流等を実施。夏には本校6年生が千歳台小を訪れ、町探検や体験活動等を通して、両校の親睦、交流を深めている。 また交流の際には、両校のPTA役員も同行し、互いに情報交換をしながら、両校のPTA活動の充実発展にいかしている。 歴史ある交流は昨年度、40周年の節目を迎えた。  2 村ふれあい学習推進協議会との連携 「うちの子も よその子どもも 川場の子 川場の子どもは川場の宝 だからみんなで育てましょう」  本校の正面玄関に掲示されている立て看板には、このような文字が刻まれている。 本校は令和3年度から「コミュニティ・スクール」の指定を受け、地域やPTAとの協働、連携の取組を行っている。本村は以前より地域との協働体制が推進されていたこともあり、コミュニティ・スクールへの移行もスムーズであった。ふれあい学習推進協議会（地域学校協働本部）には、「川場村こども応援隊スマイル」という組織が編成され、地域の方がコーディネーターを務め、ボランティアを募り、子ども

の活動を支援している。「登下校の見守り」「校外学習の見守り」「家庭科実習補助」「水泳授業の見守り」「図書の整備」「読み聞かせ」「クラブ活動」等、日常的に多くの地域やPTAの方が教育活動の支援に入り、子どもの安全や教育活動の充実につなげてくださっている。全校児童140人に対し、令和5年度の支援ボランティアに参加した人数は、延べ「2,906人」にのぼった。

参加したPTAをはじめとしたボランティアの方々からは、「子どもの成長に関わってうれしい」「家庭では見られない子どもの一面が見られた」「子どもからいつも元気がもらえる」などといった感想が寄せられている。

地域やPTAの方々が活動に加わることによって、子どもたちの「安全・安心」や「学びの質の高まり」が見られるのは、当然のことであるが、「地域愛・郷土愛」や「自己肯定感」「大人への尊敬の念」が他地域と比べて顕著な様子が、子どもたちの各種アンケートからうかがえる。



3 休日を活用した体験教室の実施

週末には、「おもいっきり探検隊」という名称で、様々な体験活動をPTAも参画しながら実施している。ここでも、PTAが参加する子どもたちと活動を共にしながら、地域の様々な人材、資源を活用し、生涯学習の推進を図っている。



「自然体験」「おもしろ科学」「グラウンドゴルフ」「ソフトテニス」「モルック」「おせち料理」「みそづくり」「手芸」「陶芸」「お箏」など、年間20回ほど開催し、今年で22年目となる

また、小学校では「おやじの会」を平成21年に発足し、PTA活動を側面から応援してきた。姉妹校である世田谷区立千歳台小学校との交流ではPTA同士の懇親を深めたり、夏行事を開催したりするなどして、子どもたちと活動を楽しみながら、保護者間の連携を深めてきた。